

「世界に開かれた多面的日本研究の実践」日台合同研究プロジェクト 成果報告書

概要

「世界に開かれた多面的日本研究の実践」日台合同研究プロジェクトは2023年9月20日(金)から2泊3日、台湾にて開催された。清水研からは14名の学部生が参加した。本合宿では、国立台湾大学、国立台北大学、国立政治大学で合同研究会を実施し、研究発表とお互いの研究に対する意見交流を行った。台湾の研究者や学生との交流を通じて、お互いの研究活動の共通点や相違点を理解し、各々の研究をより多面的な視野で捉えることができた。

○1日目@国立台湾大学日本研究中心

合宿初日は国立台湾大学にて、日本政治史や日本政治のテーマに関連する口頭発表とポスター発表を中心に進められた。清水研からは2名が口頭発表を、6名がポスター発表を行った。前半の口頭発表では、15分間の発表の後、10分間の質疑応答・フィードバックの時間が設けられた。清水研の発表者は「歴史認識問題に対するメディアの反応」や「SNSを用いた若者の政治参加の促進」といったテーマについて発表し、台湾大の生徒や台湾大学の田世民先生によるご意見を頂戴した。

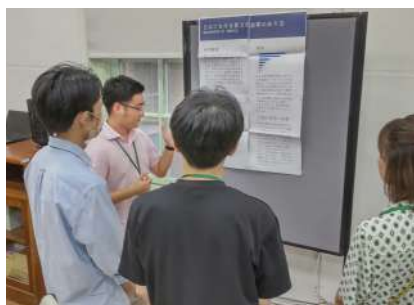
後半は清水研1年目のメンバーにとっても初めてのポスター発表を行った。口頭発表とは異なり、自分のブースに来る人にできる限り簡潔に要旨を伝え、質問・フィードバックに答えるという国際学会の形式を経験した。短時間でいかに分かりやすく自分の研究背景・目的・方法を伝えられるのかが鍵となり、普段のゼミ発表とは違う新たなコミュニケーションスキルを養うことができた。



台湾大学の学生による口頭発表の様子



清水研の学生による口頭発表の様子



ポスター発表の様子

○2日目@国立台北大学アジア太平洋地区研究センター日本研究部門

国立台北大学は台湾の政治家、官僚を多く輩出している名門校であり、特に公共行政政策系は台湾政治や日台関係といった分野に関心のある学生が多く在籍している。今回は清水先生と長きにわたる交流のある台北大学歴史学系の蔡龍保先生と公共行政政策系の羅至美先生のご協力のもと、台北大学と慶應義塾大学の初の研究交流が実現した。研究交流に向けて、清水研の3名の英語発表者は事前に台北大学側に発表資料を共有し、台北大学の生徒は発表内容を起点に「ディスカッション」という形で質問や提案といったフィードバックを準備した。質疑応答を含め研究交流は全て英語で行われた。

発表は明治における科学技術開発のプロセスや自治体における町内会を通じた市民政治参加の意義、地方自治体における行政計画へのSDGs反映プロセスと多岐にわたった。発表に対する台北大生の熱心な質問や意見に触れ、同世代の台湾の若者の政治意識の高さを実感した。同時に、ゼミ内の発表では当たり前と感じ、説明を省いている部分に質問を受け、研究を対外的に発表する際の課題も確認できた。



台北大学の学生・研究者の皆様と



ディスカッションの様子

○3日目@台湾総統府、国立政治大学国際事務学院

3日目の午前中は台湾総統府を訪問した。総統府は日本の植民地時代の1919年に建設された。中央にそびえ立つ主塔は当時台湾で最も高い建物とされ、日本の国威を象徴するために、主塔より高い建物の建設が禁止されていた。総統府内には社会運動や政治活動の歴史を紹介しているブースがあり、日本人には当たり前とも言える民主主義という構造が、台湾では多くの犠牲を払って勝ち取ってきたものであることを感じた。

午後は政治大学国際事務学院日本研究学位学程にて、日台関係研究の第一人者である松田康博先生によるランチセッションが行われた。ここでは、日台関係の重要性や、台湾から見た日本についての貴重な知見を得ることができた。アジア地域における政治的課題や日本の役割といった広範なテーマについて質疑応答を通じて議論が交わされた。ゲストセッションの後に行われた両大学による口頭発表とポスター発表では、初日、2日目に続き、現地の学生、研究者と濃密な議論を行った。台湾側の学生に分かりやすい資料を意識しつつ、議論のレベルを高く保てたことは、相互にお互いへの伝わりやすさを意識したからこそなし得たことだ。



総統府前にて



政治大学の学生・研究者の皆様と

おわりに

本合宿は日本に住む日本人としての視点だけからは得られない政治感覚や意識に触れる貴重な機会となった。台湾の学生や研究者との対話を通じて、異なる文化や背景から生まれる政治へのアプローチへの洞察を得た。また、異なる文化や前提を持つ学生たちの前で発表を行うことで、説明方法の見直しや追加の調査項目が明確になった。研究活動におけるコミュニケーションスキル向上の上で大変価値のある経験だった。

懇親会や研究発表時間外でのディスカッションでは、台湾の若者たちが日々感じている安全保障上の脅威や、政治関心について深く理解することができた。同世代の若者との交流を通じて、日本政治や日台関係についての多面的な理解が深まり、自身の研究にも生きるであろう、グローバルな視点を学んだ。本研究会では国際的な日本研究の発展に貢献できるよう、今後も台湾との研究交流を続けていく。